Faculty Development

日本大学 FD NEWSLETTER

WINTER 2023 VOL 22

Contents

特集 3年ぶりの対面開催。学生FD CHAmmiT（ちゃみっと） 2

連載 部科校における学習支援等の事例紹介 4
第14回 ［経済学部］各種資格等取得に向けた学習の支援につながる制度

連載 授業改善のためのティーチングティップスの収集と情報提供
第15回 生物資源科学部が誇るフィールドサイエンス教育

COVER PHOTO

医学部5年次生「救急医学実習」の様子。医学生に対する臨床トレーニングの一環として，担当症例の急変をシミュレーションして自らが指示を出して対処する実習を行っている。この実習により受け持ちの患者さんの病態把握や治療で何が必要かを自主的に理解することとなる。（担当教員：医学部 櫻井 淳 准教授）

特集 3年ぶりの対面開催。学生FD CHAmmiT（ちゃみっと）

令和４年度の日本大学 学生 FD CHAmmiT が，待望の対面参加を含む，ハイブリッド方式で開催されました。各学部から集結した学生スタッフが中心となってミーティングを重ね，本番を迎えました。学生 FD CHAmmiT は，グループセッションによって浮き彫りになった大学教育の改善策を，大学や学部に提案することで，学部等における今後の学生参画型 FD 活動の契機とし，効果的な教育改善につなげることを目的としています。

令和４年度日本大学 学生 FD CHAmmiT テーマ
「あなたにとって，大学とは何ですか？」

今回の CHAmmiT には，対面とオンラインで総勢 255 人が参加。学生・教職員が大学で学ぶ理由などを共有しながら，理想と現実のギャップを抽出し，その差を埋める解決策をグループセッション“しゃべり場”を通して考えました。

開催日時： 令和４年 10 月 16 日
開催方式／場所： 対面とオンライン (zoom) のハイブリッド方式／日本大学本部，通信教育部

事前準備 オンラインで学生スタッフが活発に議論し，テーマを練り上げる

総勢 48 人の学生スタッフが，７月から計６回，オンラインでミーティングを重ね，今年度のテーマや運営を話し合いました。第１・２回は，Google Jamboard を活用して「大学全体としての教育改善」と「より質の高い授業とは何か？」について議論。学生たちは，オンライン授業を通じて身につけた ICT 技術をフル活用して意見交換をし，テーマを練り上げていきました。

第３回のミーティングには，林真理子理事長と酒井健夫学長も参加。終了後には，理事長との懇談会が実施され，学生スタッフが今回の企画と大学への要望を伝えるなど，大学全体でよりよい大学教育の実現を考える場となりました。また，学生スタッフの交流会も複数回開催され，親睦を深めました。

第３回は，理事長や学長のほか，教職員も８人参加。

本番前日の第６回は，全員でリハーサルを行った。

開催当日 大学の教育改善案を，３回のセッションから学生自ら導き出す

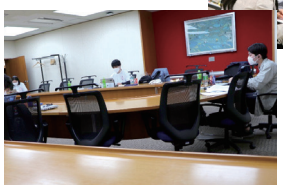
オープニング　テーマ説明と学部混合のグループでアイスブレイクを実施

大貫進一郎副学長とコアスタッフキャプテンの挨拶後，学生スタッフが，今年度のテーマ「あなたにとって，大学とは何ですか？」を発表。コロナ禍で大学生活を送ってきた経験から，改めて「大学の在り方」について考えてほしいという思いを伝え，CHAmmiT の目的や話し合いの際の注意点を参加者全員で共有しました。

今回は，参加者が対面・オンラインのいずれか希望する方法を選択して参加。そのため対面グループ，オンライン＆対面グループ，オンライングループの３つの形態にグループが分かれましたが，アイスブレイクでは，自己紹介を通じて闊達な話し合いの空気が作られました。

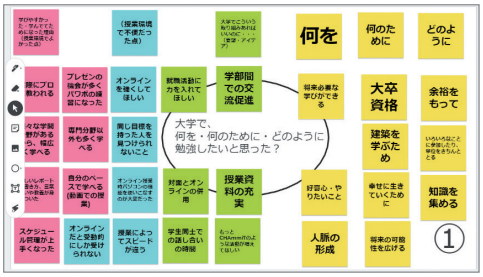
◀対面グループ

▼オンライン＆対面グループ


◀オンライングループ

セッション1　大学で学ぶ目的の洗い出し

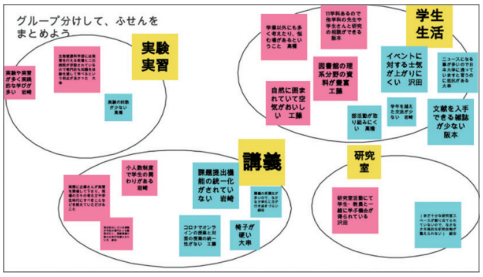
セッション１はアイスブレイクに引き続き，学部混合で実施。大学で学ぶ目的を洗い出すため，「大学で，何を・何のために・どのように勉強したいと思いましたか？」をテーマに話し合いました。対面グループは，模造紙に付せんを貼り，オンライングループは，Google Jamboard を用いて意見を出しました。自身の体験談を語るファシリテーターや教職員に導かれ，徐々に議論は活発に。大学で学ぶ目的と併せて，本学の良い点や改善点，要望も挙げられました。各グループで出された意見は，セッション２・３の話し合いのヒントになりました。



セッション１　大学で学ぶ目的として，「特定の学問を学びたい」という声のほか，「将来の可能性を広げたい」「幸せに生きていくために」など自己実現への期待もあった。

セッション2　問題点の整理

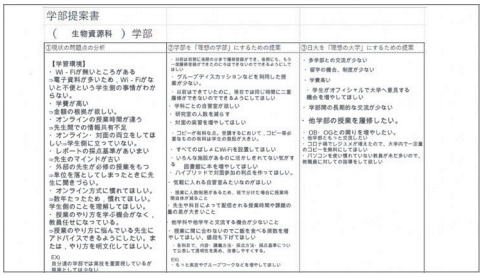
セッション２は，学部ごとのグループに分かれ，「思い描いた大学生活を送れていますか？」をテーマに議論が行われました。セッション１の議論を踏まえ，本学の教育における理想と現実のギャップから，「各学部で改善できる問題点は何か？」を考え，Google Jamboard を活用して整理していきました。講義や実習など，授業に関わるものから，学生生活に関するものまで多様な意見が挙がりました。



セッション２　学部ごとのグループに分かれ，大学の良い点はピンクの付せん，改善点はブルーの付せんに書いて，意見をグループ分けし，問題点を整理した。

セッション3　学部提案書の作成

セッション３は，引き続き学部ごとのグループで行われ，まず昨年の各学部で作成された改善報告書を確認したのち，セッション２で挙がった意見を基に，現状の問題点の分析。その後，解決を優先すべき課題を考え，「学部に求めること」，「日本大学全体に求めること」の２つに分けて，学部提案書にまとめました。どの学部も問題を分析し，具体的な提案に落とし込んでいました。特にオンライン授業実施に伴い，学内の Wi-Fi 環境の改善に関する提案については，複数の学部の学生が課題だと感じていることがわかりました。また，成績評価に関して，「成績評価の指標を明確にしてほしい」といった提案も目立ちました。



セッション３　学部提案書は，「現状の問題点の分析」「学部を『理想の学部』にするための提案」「日大を『理想の大学』にするための提案」の３項目でまとめられた。

エンディング　学部提案書を互いに共有

エンディングでは，代表として生物資源科学部と文理学部，経済学部が学部提案書の内容を発表。最後に酒井学長からの講評が行われ，盛況のうちに CHAmmiT は終了しました。

CHAmmiT を振り返って　学生スタッフの交流を促進し，FD活動の認知度を高めたい

CHAmmiT コアスタッフキャプテン
経済学部 経済学科 3年
土屋怜王さん

今回私たちが心がけたのは，より具体的な解決策を学部提案書に落とし込めるよう，学生・教職員の双方が積極的に意見を出せる場にすることです。各セッションでどのようなテーマを設定すれば意見を整理しやすいか，学生スタッフ全員で入念に考えていきました。また当日の進行に困らないよう，注意点を詳細に示した運営マニュアルも作成。その結果，事後アンケートでは参加者の 87% から「非常に楽しめた」「楽しめた」との回答があり，CHAmmiT は大成功だったと思います。

私は昨年からこの活動に参加していますが，学生の FD 活動の認知度はまだ低く，周知することが大きな課題です。今回は，昨年度よりも学生スタッフの交流の場を多く設けました。FD について深く知ってもらい，学生スタッフを中心として FD 活動が多くの学生に浸透していけばと考えています。

開催当日の学生スタッフの集合写真。手のポーズは，CHAmmiT の “C” を表している。

連載 部科校における学習支援等の事例紹介

第14回 ［経済学部］各種資格等取得に向けた学習の支援につながる制度

経済学部では，在学中の学生に対する各種資格等取得の奨励を通した自主創造型人材の育成を目的として，各種資格取得者及び国家公務員等合格者に対して，経済学部校友会の協力を得て，奨励金を給付しています。

この制度を利用する学生は，年度の始めに目標を定め（エントリーシートを提出），学内講座・学外講座の活用等によって資格等取得のための勉強と大学の授業との両立を図りつつ，各種資格等の取得を目指します。

公認会計士や税理士などの難関とされる資格だけではなく，ファイナンシャル・プランニング技能検定2級や日本商工会議所簿記検定2級，宅地建物取引士といった資格取得に手が届きそうな資格も含めて，令和4年度は42の資格を奨励金給付の対象としました。このようにして，学生が興味関心を持って自分の能力で目標達成可能となるように入り口部分を広く設定する事により，1年生も含めた大勢の学生が資格取得を目指すことを支援する制度となっています。令和4年度は537名もの学生にエントリーいただきました。

大学の授業，部活・サークル活動，アルバイトなど様々なことで忙しい大学生活において，将来を見据えてコツコツと努力を積み重ねる多くの学生をこの制度によって経済的に支援することができています。また，この奨励金は目標達成者に給付されるという性質から，勉強のモチベーション維持に一役買っているかも知れません。本学部は，学生に寄り添う，こうした支援制度を今後も拡充していきたいと考えています。

（経済学部教授　村岡哲郎）

連載 授業改善のための ティーチングティップスの収集と情報提供

第15回 生物資源科学部が誇るフィールドサイエンス教育

生物資源科学部は，生命・食料・資源・環境をキーワードに，2023年度４月より従来の12学科体制から新たな11学科からなる教育体制で再スタートします。長年，当学部では，各学科単位で教育内容を見直し，新しい分野を取り入れてカリキュラムを充実させてまいりました。その結果，学科間の教育内容の重複も徐々に大きくなり，受験生から見ても学科の特徴，差異がわかりにくくなりました。今回の改組では，時代のニーズにより対応した新しい分野，教育内容を取り入れること，受験生から見てわかりやすい教育体系，教育効果の高いカリキュラムの構築に主眼が置かれています。

生命・食料・資源・環境を結ぶ多様な人材育成には，フィールドでの教育が不可欠です。講義･実験･実習･演習を一体化させ，相互にフィードバックさせる総合的フィールドサイエンス教育は，新しい生物資源科学部においても主幹をなしています。東京ドーム12個分に相当する湘南メインキャンパスのフィールド，静岡・群馬・北海道のオフキャンパスのフィールドを最大限活用し，講義で学んだ内容を実際に自らの目で確かめ，体と心で感じ，手を動かして着実に身につけていきます。さらに学科の特性に応じて，問題解決型学習などのアクティブ・ラーニングを授業に導入し，実践的な課題発見・解決能力を修得することにもチカラを入れています。いずれのカリキュラムも入門（初年次教育）から段階的に社会での実装，活用例を見て，体験できるようにしています。

今後，「個々の学修者本位の教育」をより重点化し，教育効果を学習効果へ発展させることができるよう，さらなる教育の充実を図ってまいります。（生物資源科学部教授　関 泰一郎，須江 隆）

※本ニューズレターに記載した資格・学年等は，令和5（2023）年1月現在のものです。

日本大学 FD NEWSLETTER 第22号
発　行　日：令和5(2023)年2月1日〔年2回発行〕
発　行　者：日本大学FD推進センター センター長 大貫 進一郎
〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24　電話:03-5275-8314 FAX:03-5275-8315
e-mail:adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp　https://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/
所 管 部 署：日本大学 本部 学務部学務課　企画・編集：日本大学全学FD委員会教育情報マネジメントワーキンググループ

「日本大学 FD NEWSLETTER」に関する御意見や御感想などがありましたら，学務部学務課（adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp）へお寄せください。

本ニューズレターに掲載した文章，写真等の無断転載・複製を禁じます。 Copyright(C)Nihon University 2022 All Rights Reserved.